

## アルゼンチン大統領予備選挙：野党左派が予想以上の差で1位に

### 1. ポイント

- 10月27日に実施されるアルゼンチン大統領選挙に向け、8月11日に全政党候補による予備選挙が行われ、事前予想を上回る約15ポイントの差で、左派ペロン党キルチネル派を中心とする野党連合候補のアルベルト・フェルナンデス元首相（以下 AF 大統領候補）が、現与党のマウリシオ・マクリ大統領をおさえ首位となった。
- 本選挙まで3カ月をきっており、マクリ大統領が15ポイントの差を挽回することは非常に難しい。アルゼンチンで政権交代が起きる可能性が高まっている。
- 政権交代となった場合、新政権発足までに政権移行チームが、現政権や市場、周辺国とどのようなコミュニケーションを展開するか注目。AF 大統領候補は、ペロン党内でも穏健派に所属する。自らは副大統領候補として AF 大統領候補とペアを組んでいる、急進派のクリスティーナ・フェルナンデス前大統領（以下 CF 前大統領）と、どちらが実権を握るかにより、今後のアルゼンチン経済は大きく左右されるだろう。

### 2. アルゼンチンの大統領選挙制度：本選挙の行方を占う予備選挙

アルゼンチン大統領選挙は10月27日に実施予定だが、それに先駆け予備選挙が8月11日に行われた。アルゼンチン大統領の予備選挙制度は、全党同時開放型義務的予備選挙（Primarias, Abiertas, Simultáneas y Obligatorias: PASO）と呼ばれ、2009年の選挙法改正により導入された。全政党が同日に行う予備選挙で、18歳から70歳の市民は投票義務があり、本選挙に参加する政党や候補者は必ずPASOに参加しなければならない。そしてPASOで有効票と白票の合計の1.5%超の得票を得られなかった候補は本選挙に参加できない。形式上は政党（または政党連合）での候補者選びだが、今回はPASOより前に各政党は候補者を一本化しており、実質本選挙2カ月前に行われる大規模な世論調査という位置づけだ。PASOの結果を受けて、有権者の投票行動が変更される可能性もある。つまり、PASOで得票率が伸び悩んだ候補に投票した有権者は、本選挙で当選の確率が低い候補に投票するより、比較的当選の可能性のある候補から、自分にとって最も好ましい候補を選ぶということになる。また候補者も、PASOの結果を受け、選挙戦略の修正を行うことも考えられる。

本選挙では、1位候補の得票率が45%超の得票率、もしくは同40%超かつ2位候補と10%以上の差があてなければ、11月24日に本選挙で1位と2位につけた候補で決選投票が行われる。選挙で勝利した候補は12月10日に新大統領・副大統領に就任する予定。

### 3. 予備選挙の結果：野党急進派候補が予想以上の差で1位に

今回の大統領選挙では主に、マクリ大統領率いる与党・中道の「変革のために共に」、左派の野党ペロン党キルチネル派を中心とする「すべての戦線」、中道左派の野党ペロン党穏健派の「連邦の合意2030」の3陣営に絞られる（図表1）。事前の世論調査では「すべての戦線」のAF 大統領候補の支持が僅かに上回る傾向が続いていたが、マクリ大統領が僅差でも2位につけられれば、決選投票で再選される可能性があるとみられていた。しかしPASOの結果は、AF 大統領候補がマクリ大統領に、事前の予想を大きく上回る約15ポイントの差をつけた。

図表1：2019年アルゼンチン政府大統領選挙の主要候補

政党連合名	政党スタンス	大統領候補		副大統領候補		PASO得票率		
変革のために共に (Frente Juntos por el Cambio) Cambiamosから2019年に変更	中道 (現与党)		<b>マウリシオ・マクリ</b> (Mauricio Macri) 1959年生	2015年の大統領選挙で当選。13年間続いた左派ペロン党政権に終止符を打った。元実業家、連邦議員、ブエノスアイレス市長		<b>ミゲル・アンヘル・ピチェト</b> (Miguel Ángel Pichetto) 1950年生	ペロン党穏健派の上院議員だが、マクリ大統領の説得に応じ、カンビオの副大統領候補として出馬。	32.09%
すべての戦線 (Frente de Todos)	左派		<b>アルベルト・フェルナンデス</b> (Alberto Fernández) 1959年生	法律家としてウルグアイラウンドの主席交渉官、ブエノスアイレス市議、フェルナンデス政権で首相を務める		<b>クリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル</b> (Cristina Fernández de Kirchner) 1953年生	故ネストル・キルチネル大統領の妻で、07-15年に大統領。	47.66%
連邦の合意2030 (Consenso Federal 2030)	中道左派		<b>ロベルト・ラバーニョ</b> (Roberto Lavagna) 1942年生	フェルナンデス政権で経済相を務める		<b>ファン・マヌエル・ウルトベイ</b> (Juan Manuel Urtubey) 1969年生	北部サルタ州知事に38歳で就任。現在3期目。	8.23%

出所：各種報道などから丸紅経済研究所作成、得票率は開票率98.75%時点。写真は各候補・陣営の公式ツイッターより

マクリ大統領は 2015 年の前回大統領選挙で勝利し、それまでの左派キルチネル政権の政策から大きく方向転換し、構造改革を推し進めてきた。同陣営は、野党ペロン党の穏健派重鎮であるピチェト上院議員を副大統領候補に据え、中道左派の票を取り込む狙いだった。

一方のペロン党キルチネル派は、地方を中心に根強い支持がある一方で、アルゼンチン経済を国際金融市場から孤立させて不支持率も高い CF 前大統領が、自らの政権で首相を務めた AF 大統領候補を擁立し、自らは副大統領候補となった。インフレ進行などにより景気後退に見舞われているマクリ政権の経済政策を批判し、国際通貨基金(IMF)からの支援や、欧州連合(EU)との自由貿易協定(FTA)の見直しを主張している。さらにはアルゼンチンの代表的な公共債である 7 日物中央銀行債(LELIQ)の利払いを停止し、年金原資に組み込むという過激な政策も打ち出している。

アルゼンチンは 1990 年代から 2000 年代初頭まで、経済不安とデフォルトが断続的に発生し、恒常的に IMF の支援を受けていた。90年代後半にはドル高や景気後退により財政が悪化。アルゼンチン政府は緊縮財政を強いられたことで、経済が大きく後退。2001 年末には IMF が設定した財政目標未達により支援が停止する事態となった。その後、2003 年に大統領に就任したペロン党のネストル・キルチネル(CF 前大統領の夫)政権下ではバラマキ色の強い政策がとられる一方、2002 年に変動相場制に移行されペソ安傾向となっていたことで輸出が奨励され、高い経済成長を記録した。2007 年に大統領に就任した CF 前大統領も、キルチネル政権の路線を継続するが、国際経済環境の悪化や進行するインフレなどで経済は失速(図表 2)。2015 年の大統領選挙で政権交代となった。今回の選挙は、マクリ大統領の構造改革路線が継続されるか、バラマキの左派政権に戻るかが問われている。

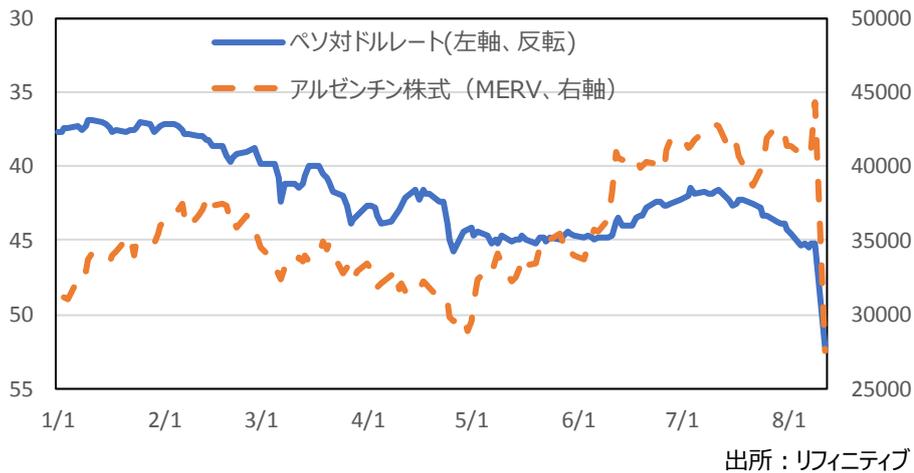
図表2：アルゼンチンGDP成長率推移



#### 4. 今後のシナリオ: 左派政権復帰がメインシナリオ、注目は政権移行や国際社会の反応

本選挙まで3カ月を切ったタイミングで、マクリ大統領陣営が15ポイントの差を逆転することは可能だろうか。PASOの結果、アルゼンチンがバラマキ政権に戻る可能性が高まったとして、週明け8月12日の為替・株式は一面ショック安の展開となった。ペソは一時前日終値比27%安の1ドル61ペソ台まで急落。終値も史上最安値の52.15ペソでひけた。アルゼンチン株価指数のS&Pメルバルも同38%安まで急落。市場関係者が左派政権への懸念を厳しく突きつけた格好だ(図表3)。

図表3：アルゼンチン通貨と株式の推移



アルゼンチン有権者がこの市場の反応を警鐘として受け止められれば、バラマキ政権への回帰が本当にアルゼンチンが進むべき正しい道なのか、再考するかもしれない。また、前回2015年のPASOでも、マクリ大統領は1位のペロン党候補のシオリ元ブエノスアイレス州知事に13ポイント以上の差をあげられていたが、本選挙で3ポイント未満まで迫り、決選投票で勝利した。しかし今回は野党ペロン党の勝利が確度の高いメインシナリオと言わざるを得ない状況だ。その要因は以下3つ挙げられる。

##### (1) 3位以下の浮動票が少ない

前回の大統領選挙では、PASOでの得票率は1位シオリ候補(36.7%)、2位マクリ候補(23.2%)、3位マッサ候補(13.6%)と、何れの候補も40%を下回り、3位以下の候補は合計30%近くにのぼった。本選挙でも同様の構図で、決選投票でそれら浮動票がマクリ候補に流れた。しかし今回のPASOの結果、そうした浮動票は20%しか残されておらず、マクリ大統領がそれら全ての浮動票を取りきるのは非常に難しい。AF大統領候補はPASOで45%以上の得票率であり、そのまま本選挙となれば、決選投票前に野党候補が勝利する可能性すらある。

##### (2) 地方選挙での与党敗北

2015年と環境が異なる点がもう1つある。大統領選挙の年と同時に実施される地方首長選挙での勢いだ。2015年当時は大統領選挙前に行われたブエノスアイレス市やサンタフェ州、メンドーサ州などの主要都市での市長・知事選ではマクリ候補率いるカンビエモス連合が勝利した。しかし今年行われた14の地方での首長選挙では、与党連合は1州でしか勝利できていない。それに追い討ちをかけたのが、PASOと同日に行われたブエノスアイレス州知事の予備選挙だ。与党連合のなかで最も支持率が高い政治家で、一時はマクリ大統領に替わって大統領候補になるとまでいわれたビダル現知事が、野党候補に約15ポイント差をあげられて敗れている。同州の知事本選挙は大統領本選挙と同日に行われる予定であり、当初は人気が高いビダル州知事がその日に再選を決め、決選投票に進むであろうマクリ大統領への追い風になるとも言われていた。その目

算は雲散霧消した。

### (3) 有権者から見放されたマクリ大統領の経済政策

マクリ大統領は就任当初こそ、海外債権者との返済遅延を巡る「[ホールドアウト問題](#)」を解決し、二重レートとなっていた為替制度是正、税制改革や年金改革などにも着手した。痛みを伴う改革ではあったものの、2017年はプラス成長を記録し、アルゼンチンが「普通の国」に戻りつつあるとの認識が広まった。しかし2018年に入り、インフレがやや沈静化したことを受け14カ月ぶりに利下げに踏み切ったあと、2018年4月末にドル高やトルコリラショックの影響を受け、ペソが急落。数度に及び緊急利上げを迫られたうえ、最終的にはIMFの支援を仰ぐ事態まで発展した。アルゼンチン国民にとって、IMF支援は2000年代初頭に緊縮財政を強いられた挙句、支援を打ち切られた苦い記憶があり、反発が大きい。それまで痛みを伴う改革にも耐えていた国民が、マクリ大統領の政策を見放し始めるきっかけとなった。2015年の大統領選挙ではペロン党政権を見限った支持票を得られたが、今回マクリ大統領は逆に見限られる立場に回ってしまったのだ。

上記の通り、マクリ大統領が再選する可能性は低く、左派ペロン党が政権を取り戻す結果が予想される。現地では既にペロン党が政権に戻るまでの過程に注目が移っている模様だ。政権移行の過程で、マクリ現政権と改革路線をどこまで修正するのか、何らかの協議がもたれることが期待されている。またアルゼンチン経済の崩壊はペロン党政権にとっても避けなければならず、市場がさらなる警笛をならすことになれば、新政権も市場関係者や債務者がどこに最も懸念を示しているのか耳を貸すのでは、という期待も強まる。ただしアルゼンチン国民のIMF嫌いは根強く、フェルナンデス陣営の公約としてIMF支援パッケージの再交渉を強く掲げている。IMFのアルゼンチン支援が流動化する可能性は否めないだろう。

周辺国との関係がどのように変化するかにも注目だ。経済的結びつきが強い隣国ブラジルとは、2000年代こそ左派政権同士（アルゼンチンはペロン政権、ブラジルは労働者党政権）で密接な関係だったが、現在のブラジルは今年から右派のボルソナロ政権に変わっている。難民の流出が続くベネズエラへの対応や、地域経済連携であるメルコスールとしての他国、他地域との経済連携などにつき、僅かな期間だがマクリ政権とボルソナロ政権は接近する傾向を示していた。そのボルソナロ大統領はPASOの結果を受け、「（ベネズエラのように）アルゼンチン国民がブラジルに流れてくることは望まない」と早速警戒感を示している。貿易上重要なパートナー同士であるアルゼンチンとブラジルの関係が疎遠になることは、両国経済にとってマイナス要素となる。ブラジル経済も前の左派政権の経済失策から未だ完全には立ち直られておらず、アルゼンチンで左派政権が復活することで、中南米地域全体が不安定化する影響も考えられる。

唯一の期待としては、AF大統領候補が、ペロン党のなかでも穏健派に属することだ。同氏は2015年大統領選挙で、反キルチネル派候補として出馬したマッサ下院議員の選挙対策責任者であり、CF前大統領が自身は副大統領候補となり、AF大統領候補を擁立したのも、穏健派の取り込みを図ったからである。AF大統領候補が新政権の主導権を握れば、2000年代のような極端な財政拡張、国際金融社会との断絶というのは避けられるかもしれない。ただCF前大統領が実権を握ることになれば、アルゼンチンは再度国際社会に扉を閉ざすような国家に後戻りするかもしれない。中南米ではメキシコでも昨年、戦後初の左派政権となるロペス・オブラドール大統領が誕生したが、過去の過激なレトリックや資源ナショナリズムの志向は残りつつも、有能な閣僚を揃えて政権運営を行い、支持率も比較的維持している。もしペロン党キルチネル派が本選挙で勝利した場合、マクリ政権が進めてきた構造改革の停滞は避けられないかもしれないが、政権発足後は選挙のレトリックとは別

に、実践的な政権運営が望まれる。

以上

担当	丸紅経済研究所 経済調査チーム 阿部 賢介	TEL: 03-3282-7582 E-mail: <a href="mailto:abe-k@marubeni.com">abe-k@marubeni.com</a>
住所	〒103-6060 東京都中央区日本橋 2 丁目 7 番 1 号	
WEB	<a href="https://www.marubeni.com/jp/research/">https://www.marubeni.com/jp/research/</a>	

---

(注記)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正当性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。
- 本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当社の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用及び引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。